

流域治水企画室

NEWS LETTER

第2号

Contents

- P2 第2号発行にあたって／筑後川河川事務所 工藤 雄一
- P3 「流域治水企画室」は2年目を迎えます
- P4 九州北部豪雨から5年 ～水害フォーラム in 久留米～
- P5 筑後川本格改修 100周年特設サイトの開設
- P5 多段階の浸水想定図、水害リスクマップを公表
- P6, 7 担当者インタビュー～教えて流域治水の取組み～

筑後川とともに未来へ～みんなで作ろう「筑後川100年物語」～



令和5年(2023年)、
筑後川は本格的な改修が始まって、
100周年を迎えます。

第2号発行にあたって

『出来る人（主体）が 出来ることを 出来るだけ』それが流域治水ですよ

※ 倫理教科書に載った中学生（熊本県）の言葉「出来っつば 出来っ時に 出来っしこ」の真似です

降水量の増加が予測され 豪雨災害が激化する恐れがある

このことで治水施設についても治水安全度が低下し 所定の安全度を見込めなくなる

これが平成20年頃に言われていた 気候変動に関する将来予測であったと記憶しています

当時当たって欲しくないと思っていました この将来予想

残念ですが 予想のとおりとなってしまうように思うのは私だけでは無いはず

国交省の TEC-FORCE [緊急災害対策派遣隊] は 本来大災害の場合に派遣となるものなのですが

毎年のように出動を求められる大災害が発生しています（写真は近年筆者が水災害関係で派遣された現場）



H24/7/14 柳川市



H29/8/23 赤谷川



R1/8/30 六角川



R2/8/26 球磨川

対応のため河川改修等の治水対策（従来型）も一生懸命進めていきます

一方で地域住民の方々の命を守るためには それだけでは足りない時代が来つつある …そんな中

「みんなで」取り組む『流域治水』が始められて 今年で3年目

あらゆる『流域治水』がそれぞれの地域ごとに いろいろなアイデアで取り組まれ拡がりつつあります

このニュースレターでは 各地で取り組まれているいろいろな『流域治水』について掲載していきます

『流域治水』について あらゆる主体の皆様の取り組みを進める 地域間連携を進める

出来ることは何かを考える

『流域治水』の取り組みを拡げていく そのための情報とすることを目指します

工藤 雄一【筑後川河川事務所 流域治水企画室長】

宮崎県生まれ 53歳

九州島内7県全てに住んだ経験あり

得意分野：事業景観形成（自称）

趣味：動画撮影・車の運転（自家用はMT車）

資格：技術士（建設部門・総合技術監理部門）



『流域治水企画室』は2年目を迎えます

近年の激甚化・頻発化している豪雨から流域全体で水害を軽減させる治水対策「流域治水」を推進していくことが重要となっていることから、本事務所では、令和3年10月より本格的に『流域治水企画室』を始動しました。2年目になり新たなメンバーを迎え入れ、流域の自治体、住民の皆様のご協力・ご理解をいただきつつ、強靱な地域づくりに努めてまいります。



○令和4年度洪水予報連絡会・水防連絡会合同開催（R4.4.27 オンライン開催）

毎年出水期を前に、気象庁や陸上自衛隊、報道機関、各県、自治体の防災担当部署と情報共有を行っています。

昨年度の洪水予報水位情報の発令状況、今年度より運用される「氾濫危険情報の発表前倒し」、重要水防箇所（危険度の高い水防上重要な区間）の情報提供を行いました。また、水防時に必要となってくる水防資機材の備蓄状況等も共有しました。



Web会議の様子

○沿川首長との意見交換会（R4.4～5月）

筑後川・矢部川の沿川16自治体の首長とR4年度河川事務所の予算概要、自治体からの要望事項、流域治水の取り組みについて意見交換を行いました。



○筑後川本格改修100周年 巡回パネル（R4.8月～R5.11月）

筑後川流域内の自治体、関係機関の33機関を対象に巡回パネル展を今年8月8日より久留米市及び日田市からスタートします。

これまでの100年におこなってきた筑後川の本格的な改修の取り組みから、これからの筑後川について考える「流域治水」について、計16枚のデータを使用しています。巡回パネル展の他に、地域のイベント等でも展示していく予定です。



九州北部豪雨から5年 ～水害フォーラム in 久留米～

2017年（平成29年）の九州北部豪雨から5年の節目にあたり、防災機関である行政と災害情報の伝え手である報道機関が共同で5月14日（土）に福岡県久留米市の久留米シティプラザにて水害フォーラムを開催しました。

『災害から命を守る』をテーマに、報道機関の情報の伝え方等の紹介や「命を守る行動」について討論を行い、危機感の共有を呼びかけました。

参加者：約300名

主催：九州地方整備局、福岡管区气象台、
福岡県、九州災害情報(報道)研究会



『災害から命を守る』ふくおか共同キャンペーン 水害フォーラム in 久留米 (R4.5.14) 概要

① 基調講演

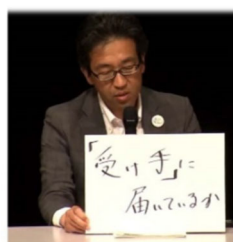
「頻発する水災害から命を守る取り組み」～流域治水と危機感共有のための合同会見～

九州地方整備局 大野河川調査官

② パネルディスカッション「水害から地域を守る、それぞれの役割と連携」

コーディネーター：東京大学院 松尾客員教授（タイムラインの提唱者）

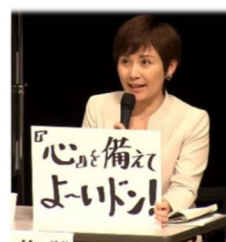
パネリスト：行政機関、報道関係者の10名



吉田大
(筑後川河川事務所)



龍山康朗
(RKB毎日放送)



若林麻衣子
(FBS福岡放送)

○パネリストからの主な意見

- ・大雨時、自分は大丈夫という考えを捨てる。災害の知識を身につける。そして、一人ひとりが「心も備える」
- ・大まかな情報はメディアより取得し、細かな情報はネットから取得。最後に行動するのは自分です。
- ・避難とは、難を避けること。難を避けるのであれば、旅行や遊びに行ってもいいのでは。
- ・災害情報が「受け手」に届くように意識を持つ。

九州地方整備局の公式 youtube にて公開しています。

第1部 <https://www.youtube.com/watch?v=0PdpwnerfcA>

第2部 <https://www.youtube.com/watch?v=eIBqHZ7oes0>

第1部



第2部



筑後川本格改修 100 周年特設サイトの開設

大正12年(1923年)、筑後川改修事務所(内務省)が久留米市に設置され、本格的な改修が始まりました。この本格的な改修が始まってから、**令和5年(2023年)で100周年を迎えます。**

これを契機に筑後川を未来につなげていくことを願い、『筑後川本格改修100周年事業』を行っています。

当該サイトは、筑後川本格改修100周年事業に向けた特設サイトとして設置しました。

イベント情報等を更新していき、皆様に「筑後川河川事務所」を知っていただくように、広報に力を入れていきます。



筑後川河川事務所のトップページの

「筑後川本格改修100周年特設サイト」バナーをクリックしてください。

筑後川本格改修
100周年特設サイト

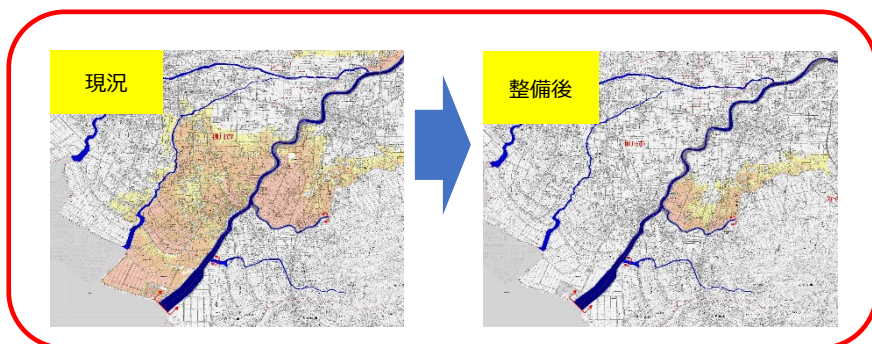


多段階の浸水想定図、水害リスクマップを公表！！

流域治水プロジェクトの一つでもあります「多段階の浸水想定図、水害リスクマップ」を今年6月に筑後川河川事務所のHPに公表しました。

多段階の浸水想定図は、降雨確率(10年に1度や50年に1度)に応じた浸水範囲を浸水深ごとに示した図となっています。また、水害リスクマップは、河川整備の進捗状況に応じた浸水範囲の変化を可視化し、将来リスクを揭示することにより、水災害リスクを踏まえた防災まちづくりを推進します。

現在の公表は外水氾濫のみを示していますが、水害リスク情報を充実・追加予定です。



筑後川河川事務所 HP



担当者インタビュー～久留米市河川課の担当者に聞きました！！～

筑後川中下流部に位置する筑後川流域の最大都市 久留米市では中小河川の整備目標を超える近年の大雨、急激な都市化により、筑後川の支川の下流部で4年連続の度重なる浸水被害を受けました。今回、流域治水企画室のメンバーで、久留米市での流域治水の取り組み状況について、筑後川防災施設「くるめウス」で取材してきました。

ALL KURUMEで流域治水！！

～ニュースに報道されていましたが、流域治水のプロジェクトチーム設置の経緯を教えてください～

今年1月に就任した原口久留米市長の強い思いもあり、これまで実施してきた浸水対策のさらなる強化、住民との連携による減災対策、住民の不安解消の見える化の3つを重点に、2月に部局間での情報共有、事業協力体制の構築を図り、事業をより推進することを目的に、「流域治水推進プロジェクトチーム」を設置しました。

また、プロジェクトチームの下部に3つのワーキンググループを設置しています。

(写真-1 取材に対応いただいた久留米市河川課 奥：山浦主査 手前：坂井主事)



写真-1

小さくても、「いま、私にできること」

～くるめウスに設置している雨水貯留タンクについて～

久留米市では各家庭に対し、雨水貯留タンクの設置に助成金（タンク費＋設置費用の1/2、上限3万円）を交付しています。令和2年7月から助成金の制度を始めています。また、100ℓ以上のタンクを助成対象としています。200ℓの雨水貯留タンクで6～7万円程度で設置できます。

～くるめウスに設置の経緯を教えてください～

設置件数（申請件数）が当初の想定より少なく、市民の皆さんに知ってもらうこと、またくるめウスが防災施設ということもあり、雨水貯留タンクの設置に至りました。市民の皆さんが直接触れて、少しでも知っていただき、各家庭で取り組む「流域治水」が広がっていただければと思います。

(写真-2 くるめウスに設置している200ℓの雨水貯留タンク)



～市民の皆さんにはどう周知を行っていますか？～

イベントや出前講座にてリーフレットの配布や市ホームページに掲載しています。また、校区のコミュニティセンター、市民センター等に配布しております。

(資料-1 職員で作成したリーフレット)

～久留米市の流域治水についての今後の課題は？～

行政が行う治水事業だけでは限界があるため、流域に関わる全ての人が流域治水を理解してもらうことが大切です。できることから取り組んでいただけるように、どのように流域治水の取り組みを周知していくかが課題です。



資料-1

官民連携して、流域治水

貯留施設の工事現場に案内してもらいました。

度重なる浸水被害を受けている筑後川支川「下弓削川」流域。

その下弓削川の支川である市管理河川の「井田川」の上流部に、久留米大学御井キャンパスはあります。2021年6月に「久留米大学御井キャンパス内貯留施設の整備に関する覚書」を久留米市と久留米大学の間で締結しました。

御井キャンパスのグラウンドを約2m掘り下げ、約21,800㎡の貯留を見込んでいます。2021年6月より工事着手し、現在グラウンドの約半分の面積の掘り下げが完了しており、2023年度の完了を予定しています。

(写真-3)

平常時は排水ゲートを開放し、大雨時に放水先（下流側）の井田川に設置する水位計に応じて、自動で排水ゲートを閉めることができます。また、大雨後には井田川の水位に応じて、自動で開放する予定とのこと。(写真-4)



資料-2 下弓削川・江川総合内水対策計画



写真-3 久留米大学貯留施設の整備の様子



写真-4 貯留施設の排水ゲート

写真-5は、もともと農業用溜池であった旗崎池です。下弓削川の支川「岩井川」の上流部にあり、農業用として使われなくなったため池を活用するために、久留米市河川課にて洪水調節施設（オリフィス）の整備、浚渫等を実施しています。洪水調節池として2024年度に完了を予定しています。



写真-5 旗崎池の整備の様子

また、その他にも今年度から、小学校のグラウンドや公園を活用した**オンサイト貯留**に取り組んでいきます。具体的には、グラウンドの周囲に小さい築堤し、雨水が外に流れないように、その場所で貯留します。

(※オンサイト貯留とは雨水を降った場所で貯留する雨水流出抑制施設のことです)

最後に

今回の取材では、久留米市の様々な取り組みを聞くことができました。ご協力いただきました久留米市の山浦様、坂井様には改めて感謝申し上げます。

お問い合わせ先

<流域治水企画室>

筑後川河川事務所

住所：福岡県久留米市高野1丁目2番1号

Tel:0942-33-9131

E-mail:qsr-chikugo-p@mlit.go.jp



<水のたまり場> (筑後川河川事務所管内 各出張所)



大川出張所

住所：大川市大字向島 2631-2

Tel：0944-86-2516



諸富出張所

住所：佐賀市蓮池町大字小松三本杉 250

Tel：0952-97-0084



久留米出張所

住所：久留米市高野1丁目2-27

Tel：0942-32-7082



片ノ瀬出張所

住所：久留米市田主丸町菅原 2461-5

Tel：0943-72-3204



吉井出張所

住所：うきは市吉井町橘田 316-3

Tel：0943-75-2300



日田出張所

住所：大分県日田市中ノ島町 608-14

Tel：0973-23-5291



矢部川出張所

住所：みやま市瀬高町

上庄字松土居 470

Tel：0944-63-2520



筑後川防災施設

「くるめウス」

住所：久留米市新合川

1丁目1-3

Tel：0942-45-5042



筑後川河川事務所のPR動画公開中

「あなたも久留米にくるっば」



九州地方整備局 YouTube